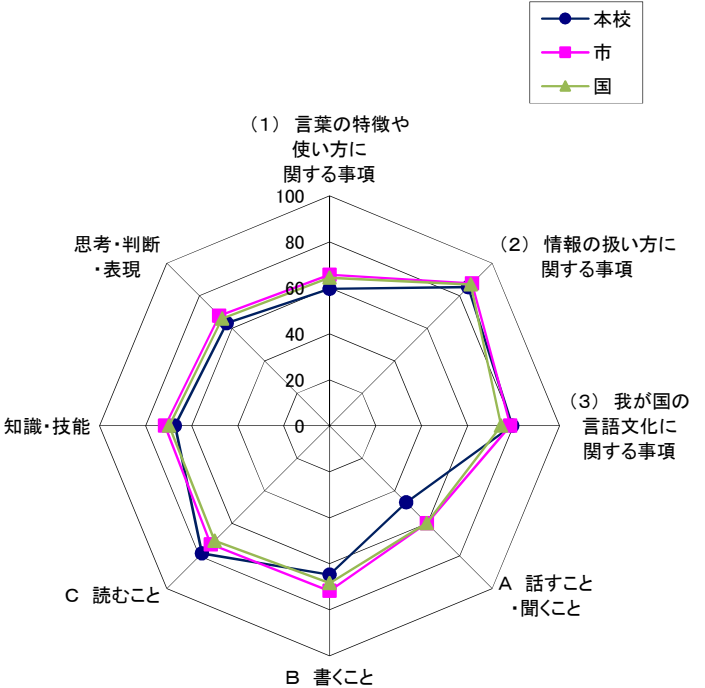


宇都宮市立平石北小学校第6学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況
【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	59.6	65.7	64.4
	(2) 情報の扱い方に関する事項	85.3	87.6	86.9
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	79.4	78.6	74.6
	A 話すこと・聞くこと	47.1	59.9	59.8
	B 書くこと	64.7	71.8	68.4
	C 読むこと	78.4	72.9	70.7
観点	知識・技能	67.2	71.5	69.8
	思考・判断・表現	63.2	67.8	66.0
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

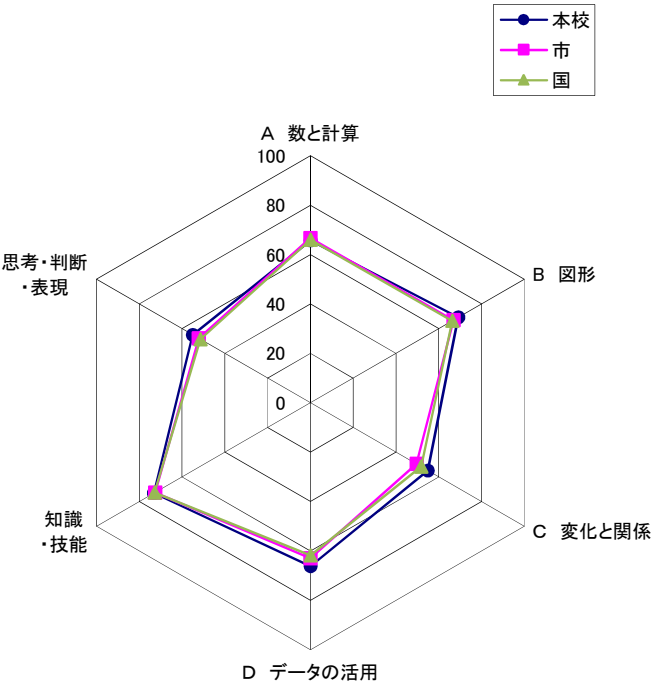
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方に関する事項	・本校の平均正答率は59.6%で、県の平均を4.6ポイント下回った。 ○文の中における主語と述語との関係を捉える問題の正答率は国や県の平均を上回った。 ●話し言葉と書き言葉との違いに気付く問題の正答率は、全国の平均を14.1ポイント下回った。	・日常生活の実際の場合や、相手・目的意識のある具体的な学習を通して、「言葉の使い方や使い方に関する事項」について理解できるよう指導する。 ・話し言葉と書き言葉の特徴を理解し、自分の考えが正確に伝わるようにそれぞれの特徴に配慮した使い分けを身に付けられるようにする。
(2) 情報の扱い方に関する事項	・本校の平均正答率は85.3%で、県の平均を1.3ポイント下回った。 ●情報と情報、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解する問題の正答率は、県の平均を1.3ポイント下回った。	・単一の情報のみに基づいて情報を整理するのではなく、複数の情報を比較したり、関連付けたりして検討できるようにする。また、多くの情報の中から必要な情報を取捨選択したり、情報同士の関係を捉えるために児童が目的や必要性のある課題を意図的に設定したりする場を設けていく。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	・本校の平均正答率は79.4%で、県の平均を1.8ポイント上回った。 ○日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付く問題の正答率は、県の平均を1.8ポイント上回った。	・日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くよう、本などの言葉の中から自分を支える言葉を見付けたり、今までになかった考えを発見したりするなど、読書にはどのような意義や効果があるのかを考える場面を設定することで、自分の読書活動が自覚的になるようにする。
A 話すこと・聞くこと	・本校の平均正答率は47.1%で、県の平均を11.5ポイント下回った。 ○目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する問題の正答率は、県の平均と同じだった。 ●資料を活用して、自分の考えが伝わるように表現を工夫することについての問題の正答率は、県の平均を19.2ポイント下回った。	・スピーチやブクトーク等の情報を伝達するための活動により、「話す・聞く」の育成を目指す一方、文学的な文章や説明的な文章などを「読むこと」の学習においても話し合い活動を積極的に取り入れ、「話すこと」「聞くこと」の学習で培った、自由に話せる雰囲気や話し方、伝達方法を基礎として、文章の「読み」を深めることにつなげていく。 ・聞き取ったことを基に自分の考えをまとめる際には、必要に応じて質問したりメモを取ったりしながら聞き、話の内容を正確に理解できるようにする。
B 書くこと	・本校の平均正答率は64.7%で、県の平均を5.6ポイント下回った。 ○目的や意図に応じて集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にする問題では、県の平均を4.1ポイント上回った。 ●目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、書き表し方を工夫する問題の正答率は、県の平均を15.2ポイント下回った。また、記述による無回答が2.9ポイントだった。	・記述の留意点を捉えることができるよう、必要に応じてモデルとなる文章を提示する。 ・目的や観点を明確にした交流を取り入れ、まとめた文章を書き直したり、考えを広げたりすることができるようにする。その際、読み手にとって分かりやすい文章にしたり、自分の伝えたいことをより明確にしたりすることを意識し、遂行する必要性を感じるようにする。
C 読むこと	・本校の平均正答率は78.4%で、県の平均を6.2ポイント上回った。 ○人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする問題の正答率は、県の平均を11.2ポイント上回った。また、記述での無回答はいなかった。	・用紙を捉えるために、指示する語句や接続する語句に印を付けたり、キーワードやキーセンテンスに線を引いたりしながら、どの叙述に着目したのかを自覚できるようにする。 ・文章全体の構造を図や言葉(小見出し)で整理し、要旨をまとめる学習活動を取り入れる。

宇都宮市立平石北小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	65.7	66.7	66.0
	B 図形	69.1	66.9	66.3
	C 測定			
	C 変化と関係	54.9	49.6	51.7
	D データの活用	66.2	62.9	61.8
観点	知識・技能	73.2	72.6	72.8
	思考・判断・表現	55.0	52.2	51.4
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	・本校の平均正答率は65.7%で、県の平均を1ポイント下回った。 ○問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる問題では、県の平均を12.6ポイント、数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる問題では、県の平均を4.2ポイント上回った。 ●除数が小数である場合の除法において除数と商の大きさの関係において理解しているかどうかをみる問題では、県の平均を11.5ポイント下回った。	除数が1/10の位までの小数の除法の計算も、これまでの小数の除法と同様に、整数の計算を基に考えれば計算できることを指導していく。 ・これまでの筆算のしかたを振り返らせ、小数の除法の筆算のしかたをまとめることへの意欲を引き出せるよう指導していく。
B 図形	・本校の平均正答率は69.1%で、県の平均を2.2ポイント上回った。 ○球の直径の長さで立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題では、県の平均を13.4ポイント上回った。 ●直方体の見取り図について理解し、かくことができるかどうかをみる問題では、県の平均を8.4ポイント下回った。	・図形の構成要素や位置関係に着目し、辺と辺、辺と面、面と面のつながりや位置関係を捉えること、また、これらを調べる活動を通して角柱や円柱の特徴を捉えさせ、空間についての感覚を養っていけるようする。
C 変化と関係	・本校の平均正答率は54.9%で、県の平均を5.3ポイント上回った。 ○速さの意味について理解しているかを見る問題では、県の平均を17.6ポイント、速さが一定であることを基に道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題では、県の平均を5.6ポイント上回った。 ●道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題では、県の平均を4.6ポイント下回った。	・速さの意味については理解しているが、解答する上で理由や言葉を用いて記述することが苦手な児童が多い。 ・道のりと時間という2量に着目し、数直線や式に表すなどして比べ方を説明していけるよう指導をしていく。
D データの活用	・本校の平均正答率は66.2%で、県の平均を3.3ポイント上回った。 ○4問全ての問題において、県の平均を1.3ポイント、3.9ポイント、6.5ポイント、7.6ポイントと上回った。その中でも、示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる問題では、県の平均を7.6ポイントと大きく上回った。	・グラフの読み取りについては、全体と部分の関係、部分と部分の関係など、多面的な見方で考察できるようにしていく。 ・数量と割合の違いに着目し、年次変化に合わせて合計数が増加している場合など、割合は減少しているも実際のデータとしては増加している場合があることについて、筋道を立てて考え説明できるようにする。

宇都宮市立平石北小学校 第6学年 児童質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○「困りごとや不安がある時に、先生や大人にいつでも相談できますか」という問いに対して、本校の肯定的回答は82.3%で、県平均を11.7%上回っている。日頃から児童一人ひとりに丁寧に接するよう心掛けるほか、教育相談活動の実施、小規模校のため担任以外の教職員も含め学校全体で児童の成長を支える指導を今後も実施するとともに、家庭・地域との連携を継続していく。

○「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という問いに対して本校の肯定的回答は82.3%で、県平均を24.3ポイントと大きく上回っている。また、「ICT機器を活用して自分の考えや意見をわかりやすく伝えることができる」という設問に対しては、肯定的回答は94.2%で、県平均を11.7ポイント上回っている。ICTに「積極的に触れる・使える」という段階からステップアップし、他者に自分の考えをより伝えやすくするツールとして活用しているすがたが見られた。これまで授業中に行ってきた、「自分で調べる・意見を交換する・発表する」等の場面でICTを活用してきた成果であると考えられる。

○「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか」という問いに対して、88.2%で県平均を22.1ポイント上回っている。発表することに積極的・前向きに取り組む児童が多い。今年度の本校の研究主題は「自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～」である。対話的活動や、日常的な「書く・話す・聞く」活動を充実させることで、自分の考えをより深めたり広める力をつけさせたい。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思いますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」「学校に行くのは楽しいと思いますか」以上の問いで全て、肯定的回答が100%となっている。他者への思いやりや向上心をもち、充実した学校生活を送ることができていると考えられる。

●「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができていますか」という問いに対して、「できている」との回答は17.6%で、県平均を14.3ポイント下回っている。「自分で学び方を工夫すること」を、具体的にどのようにすればよいかわからない児童や、個々の学力により自信がない児童もいると考えられる。基礎・基本の定着を引き続き図った上、学び方を例示するなどし、それぞれが自分に合った学習方法を工夫できるようにしたい。

●「算数の勉強は好きですか」という問いの肯定的回答は52.9%で、県平均に対し8.3%低い。しかし、「算数の勉強は大切だと思いますか」「算数の授業で学習したことは社会に出たときに役に立つと思いますか」という問いの回答はどちらも、肯定的回答が100%となっているため「算数が大切なことは理解しているが難しい、苦手意識がある」という児童の現状が見える。TTや個別指導なども有効活用し、算数が苦手な児童も「わかる」授業を実施していく。

●「英語の勉強は好きですか」という問いに対して、本校の肯定的回答は67.6%で、県平均を5.6ポイント下回っている。高学年になり内容に難しさを感じ、苦手意識をもっている児童が多いと思われるが、「英語の勉強は大切だと思いますか」という問いの肯定的回答は100%となっており、児童自身も、これからの国際化社会に向けて英語が必須であることは理解している。ALTとの連携等の工夫により、楽しく英語力を身に付けさせることが必要である。

宇都宮市立平石北小学校（第6学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
自分の考えをもち、ともに学び合う児童の育成 ～対話的活動を効果的に取り入れた授業づくりを通して～	・宇都宮モデルの指導の質的向上 ・資料活用能力の育成 ・読解力(語彙力)の育成、読書活動の充実 ・個に応じた指導の充実	国語科では、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「情報の扱いに関する事項」において県平均に比べて低かった。課題解決に向けた必要な情報を得ること、自分の思いや考えをまとめることが難しいという傾向が見られた。 算数科では、県の平均とほぼ同等の値であったが、「数と計算」において県平均と比べて低い結果となった。小数の除法についての理解が低い傾向が見られた。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
宇都宮モデルを意識した授業を行ってきた。読解力(語彙力)の育成、情報活用能力の育成、自分の考えをまとめ整理する力などに課題が見られた。また、資料を活用して自分の考えを表現することに關しても課題が見られた。国語科において思考力・判断力・表現力等を問う問題に課題がみられる。	基礎・基本内容を確実に習得し、得られた知識・技能を活用しながら課題探究学習に取り組み、思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	十分に定着していない内容を見直し、フォローアップ問題やAI型学習等を計画的に活用し、基礎・基本の習得を図る。また、課題追究の場を設けたり、読解力(語彙力)を育くんだりするとともに情報・資料活用能力が育成できるような学習や活動の場を設定し、発展的且つ補充的学習の定着を目指す。